団地児童の遊びの利用単位

福 富 久 夫
（都市計画研究室）

Studies on the Play-space for Children in the Housing Estate

Hisao FUKUTOMI
Laboratory of Town Planning

Abstract

Studies on the Play-space for Children in the Housing Estate. H.FUKUTOMI. Faculty of Horticulture, Chiba University, Matsudo, Japan. *Tech. Bull, Fac. Hort. Chiba Univ.*, No. 15 : 55～62, 1967.

For the purpose of obtaining fundamental data of the site planning, this survey was conducted during the period from October 23 to November 6, 1965 on the children of ages, 3 to 12, at the three housing estates in Tokyo and its vicinity. In this survey, 871 children of 210 groups who were playing in the above-mentioned apartment areas were observed. The results of this survey may be briefly summarized as follows : 1) The places used for out-door recreation were mostly about 60 m apart from the houses. 2) The children of higher age groups play at places rather distant from home. However, most of the primary-scholar play within 100 m (girls) or 150 m (boys) from their homes. 3) In the case of passive play, the children play mostly at areas within 20 m^2, while in he case of active play, they play mostly at areas within 300 m^2. 4) Most passive play takes place at the places within 100m from home, while a large number of active play is taken at places within 140 m from home.

住宅団地計画の基礎的な資料を得るために，団地児童の戸外の遊びの種類，場所，遊び仲間や児童遊園の使われ方などについて，既に土肥（1958），鈴木（1961，1966），谷口（1962），近藤（1964）ら多数の研究者によつて行なわれている．しかし子供の日常的な自由遊びに使われるスペースとその場を，遊びの種類，グループの構成，住戸との関係においてとらえたものは，まだないように思う．

調 査 方 法

調査は3～12才の幼児および学童のグループ遊びを対象として，東京都内および近県の赤羽台，豊四季，常盤平の3団地で秋（1965年10月23日から11月6日の間），いずれも晴天の日を選んで調査員が直接子供たちの遊んでいた場所，その場の構成要素，人数，性別などを観察記録したのち，遊びに使われたスペースを測定した．年令，住所，グループの構成，遊びの内容等については，子供たちから聴取することとした．

結果および考察

調査したグループ遊びは，210例（動的な遊び140例，静的な遊び70例）延べ871人である（第1表）．子供の遊びは，さまざまな形をもっていて，ぶらんこ，すべり台などの施設を使つた遊びや三輪車，自転車，ローラースケートなどの乗物とか，ボール，ごむひも，ままごとなどの道具を使う遊びや，かけっこ，とびっこ，ふざけっこ，ジャンケン遊びなどの自由遊びがみられる．ここでは，児童遊園に限らず団地の中でのいわゆる広場タイプの遊びを調査したのである．

3団地で見られた子供の遊びを動的・静的の基本類型により分類し，この分類に基づき団地別に調査した遊びの種類を示すと第2表のようである．以下，比較的例数の多い遊びの種類についてみる．

1．遊びの種類

1) 乗物遊び

三輪車や豆自動車は3才くらいから乗り始める．5～6才になると二輪車や自転車に乗って遊ぶ子が多くなる．女の子でも三輪車や二輪車に乗って遊ぶが，自転車になると男の子がほとんどであり，年長の女子はむしろローラースケート遊びをよくする．

第1表　調査したグループ遊びの例数および児童数（団地別）

団地*	例数	児童数		内訳*** Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計
A	55	226	m**	6	37	50	35	15	143
			f	10	28	23	16	6	83
K	48	200	m	26	30	43	20	13	132
			f	12	17	11	16	12	68
M	107	445	m	58	81	72	66	10	287
			f	35	51	35	28	9	158
計	210	871	m	90/16.0	148/26.3	165/29.4	121/21.5	38/ 6.8	562/100
			f	57/18.5	96/31.1	69/22.3	60/19.4	27/ 8.7	309/100

注.
* Aは赤羽台団地
Kは豊四季団地
Mは常盤平団地
** mは男子 f は女子
*** Ⅰは3～4才
Ⅱは5～6才
Ⅲは7～8才
Ⅳは9～10才
Ⅴは11～12才

第2表　調査したグループ遊びの種類別例表（団地別）

遊びの種類	団地別* A	K	M	計
三輪車，豆自動車	1	5	3	9
自転車	2	1	3	6
ローラースケート，その他		1	2	3
ベースボール	6	2	10	18
ドッジボール	2	2	4	8
バドミントン	1	4	2	7
キャッチボール，その他	3	1	6	10
ごむ飛び，なわ飛び，綱ひき	7	2	8	17
飛行機遊び	2	2	3	7
ピストルごっこ，チャンバラ		2	2	4
つかまえっこ		2	1	3
ふざけっこ	1	1	5	7
回転，体操遊び		2	1	3
かくれんぼ，鬼ごっこ	5	1	7	13
ジャンケン遊び	2	1	3	6
かけっこ，飛びっこ	2	3	6	11
のぼりおり遊び		1	2	3
イレギュラー遊び**		1	4	5
計	34	34	72	140
ままごと，人形遊び	11	9	13	33
ごっこ遊び			6	6
砂遊び，土いじり	4	1	7	12
らくがき遊び			3	3
おもちゃ，こま遊び	4	4	3	11
お話し，その他	2		3	5
計	21	14	35	70

注．* 第1表参照
** 走ったり，スキップをしたり，芝生へ入ってころがったりする年令の小さい子にみられる流動的な遊びである．

三輪車・豆自動車は小さい男の子の同質グループが多く，住戸付近のアプローチ路で遊びに夢中になってこぎっこをしたりして，居住棟回りにとどまらず隣接の周辺道路や，さらに児童遊園へも延長する場合があるが，多くは住戸付近を拠点にして路上を行き来する．

学令児の自転車遊びは，スピードもあり線的な広がりもきわめて大きく，とらえにくい．乗り回して遊ぶこともあるが，友だちの所や遊び場への到達手段に使うことが少なくない．ここでは，貸し自転車遊びや電車ごっこのような自転車を直接遊びに使っている事例をとらえた．

2）ボール遊び

組織的なボール遊びが上手にできるようになるのは，小学校5～6年といわれるが，6才児でも野球遊びをする．野球は男子の遊びでは断然多く，平均年令8才以上と比較的高い．使われるスペースも，他の遊びに比べて大きいほうである．5～6人のグループで棟間の芝生地などが，最も多く使われる．ときには，道路上の狭いスペースで三角ベースが行なわれるが，クラスメートなどの学童の同質グループでは，より広い場所へ出かける場合も少なくなく，その距離圏はかなり大きくなる．

キャッチボールやバッティング遊びは，2～3人で芝生ですることが多い．やはり男子が大半(71%)である．なお，ボール遊びは，3～4才の小さい子（ビニールの大きなボールを投っこする）や，また女子（キックボール，ドッジボール，バドミントンなど）も行なうが，ごくわずかである．

3）なわ飛び

2～3人で棟間の芝生地や児童遊園の舗装広場などで多く行なわれる．住戸入口付近の路上で遊ぶ場合もある．女の子が大半（72.9%）で学令児のグループや，または幼児も加えたグループで遊ぶ．5才以下の幼児だけでは，ほとんど行なわれない．一人飛びをしながら動き回ることもあるが，多くは場所の移動の少ないまとまりのある遊びで，遊戯スペースは大きくない．なお，なわとびのひもを使った綱ひき（8の字遊び）などをして遊ぶ例もみられる．

4） ふざけっこ・つかまえっこ・ピストルごっこ

これらの遊びは，学令児になると女の子も参加する．強さや活動の点ではそれほど変りなく活発に遊ぶが，人数からみれば男の子が断然多く（69.2%），またいっそう動きが激しく長時間夢中になって遊ぶ．この遊びは特別決まりもなく，大ぜいの子が加わることができ小さい子も遊ぶ．ふざけっこは平均年令8才，女の子も遊ぶ（32.1%）．遊ぶ場所は，住戸の近くの芝生地などが多い．遊び方は融通性に富み，忍者になったり，ガードマンになったりして，つかまえっこ，ピストルごっこと同じように遊ぶ．つかまえっこは平均年令7.9才で，女の子も少なくない（52.4%）．また，遊ぶ場所は居住棟からやや遠く，遊戯スペースもかなり大きい．ピストルごっこは，男子のみで4～5才の幼児が多く（68.8%），遊ぶ場所は住戸付近の芝生地などである．

5） 鬼ごっこ

鬼ごっこに類する遊びは，隠れ鬼，目くら鬼，アウト鬼，つかまえ鬼，かんけり鬼などと，かなり多様である．役割りやルールが弁別できない年令の小さい子もハンディをつけて，いっしょに遊ぶ．幼児だけで遊ぶことは全くなく，年長児といっしょに遊ぶ．鬼きめ，見つけ，つかまえ，タイムなど多少ルールがあり，また遊びの範囲を規定することもある．かんけり鬼などは，ほとんどが学令児のグループで行なわれ，住戸近くの児童遊園や，その隣接の建物の陰に隠れたりして遊戯スペースはきわめて大きい．しかし居住棟からの距離は比較的近く，遠くへ行くことはほとんどない．

6） ジャンケン遊び

学令前の幼児でも5～6才になるとみられるが，幼児だけでジャンケン遊びをする例は全くない．ジャンケンに勝ったものが先へ進む陣とりが多いが，その他ジャンケンに負けた子の品物を隠して捜させる場合もある．ジャンケン遊びは，学令児の女子グループが多く，平均年令も10才とかなり高い．遊戯スペースは比較的狭いが，ときには300m²以上という事例もみられる．

7） かけっこ・飛っこ

子供は駆けたり飛んだりできるようになると，どこででもはね回るのであるが，グループ遊びとしては学令児がほとんど（81.8%）である．遊び相手とか，環境のわずかな刺激でかけっこや飛びっこをして遊ぶが，一時的で持続性に乏しい．女の子の場合はリレーや片足飛び競走，男子のグループでは，走幅飛びや走って行ってかがんでいる人馬を飛び越す．幼児が多い場合は，ケンケン遊びのほか，芝生などでつくばいになって競走したりする．グループの人数は平均5人，年令は7.6才であるが，幼児を加えたグループの場合は，棟の回りの芝生地やアプローチ路で遊び，学令児では児童遊園の施設を使って遊ぶことが多い．

8） ままごと遊び

5才以下の小さい女の子が最も多く行なう遊びである．学令児は少なく（17.5%），特に男子はごくわずかである．食べ物を作ったり，ごちそうしたり，この遊びの中心はお母さんである．人形なども加えてかなり多様であるが，動作よりむしろ言葉の楽しみを味う女の子の遊びなので，男の子も参加するが小さい子に限られる．平均年令も，遊びのスペースも小さい．グループの人数は3人が最も多い．遊ぶ場所は，居住棟の回りの落ち着いた所や児童遊園のベンチ，砂場などで，ときには200m以上出かけることもある．

9） その他の静的な遊び

ままごとのほか，幼児の典型的な遊びとして幼稚園ごっこ，おみせやごっこ，電車ごっこなど，社会生活のしくみをまねたごっこ遊びをする．学令児でも，7～8才ころまでは想像生活時代と呼ばれるように想像力が活発で，探検ごっこなどをして遊ぶ．ごっこ遊びはグループの年令，遊びのスペースなどがままごと遊びより多少大きい．その他砂遊び，土いじりなどを，かなり長時間よく行なう．年令はままごと遊びと同様に，5才がピークといわれるが，その傾向がうかがえる．遊ぶ場所は，ままごと遊びより遠出する場合が多く，いくぶん遠い．

次に，これらの調査結果を遊戯スペース，住戸からの距離などの指標でみる．

2．遊び場の距離

遊びに使われる場の生じ方は単一ではない．一つには，その場のもつ魅力によって決まる．それぞれの遊びが展開しうるスペースや人工的な施設などのほか，よじ登れる斜面や樹木がある所とか，ころがって遊べる草地などのように環境自身が遊びの手段として利用できる可能性をもった所などである．また，一つは発達的にみた子供の行動半径が，遊び場決定に大きな役割をする．水

遊びや野球の試合などは，かなり遠くてもそこまで出かけて行くが，日常生活場面における多くの遊びは，家の近くで行なわれ，少し遠くなれば子供はそう遠出をしてまで出かけない．

ここでは，遊びに使われる場を住戸からの距離という指標でみることにした（第3表）．表に見られるように，

第3表　遊び場と住戸からの距離の関係（団地別）

距離* / 2) 団地	1—101	101—200	201—300	301—500	501—	計
A	129/ 1) 70.8	34/18.7	17/9.3	2/ 1.1		182/100
K	121/ 64.7	23/12.3	12/6.4	30/16.1	1/0.5	187/100
M	336/ 82.6	49/12.0	8/2.0	5/1. 2	9/2.2	407/100
計	586/ 75.5	106/ 13.6	37/4.8	37/4.8	10/1.3	776/100

注．1.　分子は人数，分母はパーセント

2.　距離は住戸入口から遊んでいた場所の中心までの直線距離（m）

＊ 第1表参照

子供たちの大半は100m以内の所で遊んでいる．団地による差は，それほどないといえる．なお，遊びのスペースとの関係についてみると，第4表のとおりであり，

第4表　遊戯スペースと住戸からの距離の関係(全例数)

距離(m) / スペース(m^2)	1～100	101～200	201～300	301～500	501～	計
1 — 100	50.2	3.6	8.0	5.8	6.3	73.9
101 — 200	8.7	—	1.6	1.4	1.6	13.3
201 — 300	3.6	0.7	0.4	0.9	0.3	5.8
301 — 500	2.7	0.3	1.1	0.7	0.1	5.0
501 —	0.7	0.3	0.9	0.1	—	2.0
計	65.9	4.8	12.0	9.0	8.3	100

注．総計に対するパーセントで示したもの．

家から近いところでわずかなスペースで遊ぶ場合が最も多く，多少広いスペースにわたる遊びでも，近いところで求められる以上に，そう遠出しないことがわかる．

年令・性別と遊びの距離については，学令前の幼児と小学生では異なるし，また年令が高くなると男女差が特にはっきりすることが，第5表にも明らかにみられる．男女とも，年令が　くなるにしたがつて広がるが，年長児でも200m以内がほとんどである．年令の低い幼児では男女差はほとんどなく50m以内，学童では女の子100m，男の子150m以内が，それぞれ70％距離圏とみられる．各団地についてみると，豊四季の学令男子がいずれも平均200m以上に伸びているのが目だつほか，住戸から50～100mといった居住棟周辺の空間が子供の遊びにとって大きな役割をもつことがうかがえる．

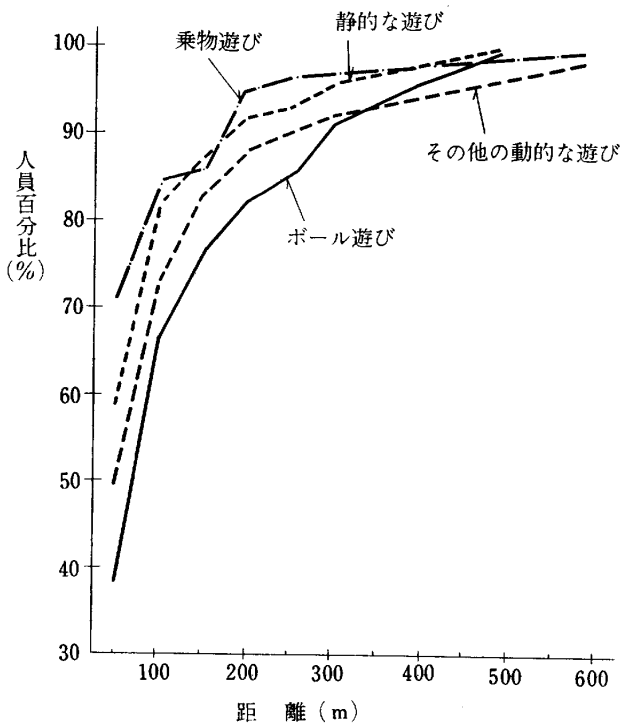
第5表　年令・性別と遊び場の距離（全例数）

住戸よりの距離（m） / 年令，性別*	m						f						m		f	
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計	Y	S	Y	S
1 ～ 50	73	88	46	30	8	245	42	54	27	18	10	151	147/71.4	98/32.8	87/70.2	64/43.0
51 ～ 100	18	28	37	29	3	115	13	20	14	15	9	71	39/18.9	76/25.4	24/19.4	47/31.5
101 ～ 150	1	11	22	10	2	46	3	7	3	6	1	20	6/2.9	40/13.4	10/8.1	10/6.7
151 ～ 200	2	5	7	10	2	26	1		5	6	1	13	4/1.9	22/7.4	1/0.8	12/8.1
201 ～ 250		4	6	1	1	12		1	5	1		7	3/1.5	9/3.0		7/4.7
251 ～ 300		5	10	7		22							4/1.9	18/6.0		
301 ～ 400		2	6	5	2	15		1	2	2	1	6	1/0.5	14/4.7	1/0.8	5/3.4
401 ～ 500			6	6	2	14		1		1	1	3		14/4.7	1/0.8	2/1.3
501 ～ 600		3	4			7					2	2	1/0.5	6/2.0		2/1.3
601 ～		2	1			3							1/0.5	2/0.7		
計	94	148	145	98	20	505	59	84	56	49	25	273	206	299	124	149
距離の平均（m）	40	85	143	132	157		47	59	97	100	126		55	140	52	95

注．Yは学令前の幼児（3～6才），Sは小学生（6～12才）

＊ 第1表参照．

次に遊びの種類と距離との関係についてみると，第1図のようである．静的な遊びでも400～500mとかなり遠くまで出かけて遊ぶこともあるが，この遊びのほとんど(80％)は，100m程度である．最も事例の多いままごとその他のごっこ遊びは，大半が60m前後で，居住棟の回りの落ち着いた場所などで行なわれることが多い．動的な



第1図　遊び場所の居住棟からの距離の累加度数分布

遊びでも，三輪車や豆自動車などの車を使った遊びは，ほとんど居住棟周辺のアプローチ路で遊ぶ．キャッチボールやバドミントン，なわ飛び，ふざけっこなども棟間の芝生地やアプローチ路で行なわれる場合が少なくない．ル

比較的遠くまで出かけて遊んでいるのは，ベースボー（最大500m，平均140m，ベースボール遊びをしていたグループの約70%），ローラースケート（最大550m，平均240m，74%），かけっこ・飛びっこ（最大400m，平均110m，72%），つかまえっこ・取りっこ（最大400m，平均155m，77%）飛行機遊び（最大660m，平均230m，62%），登り降り遊び（最大720m，平均280m，53%）などであるが，全体からみれば住戸から離れるにしたがって急激に少なくなっている．乗物遊びでは，全体の80%は住戸から85m以内で遊んでおり，ボール遊びは180m，その他の動的な遊びで140m程度とみられるのである．

3．遊びのスペース

遊びには広さが必要であり，そこで行なわれる遊びに対応したものでなければならない．しかし現実の子供の遊びは，かなりの融通性があり，同じ遊びでも小さなスペースから，かなり大きなスペースまでが使われている．したがって，年令・性別・グループの大小などについて，より多くの事例を調べる必要があるが，ここでは比較的例数の多いものを中心に考察する．

まず，グループの大きさと遊びのスペースについては，第6表のとおりである．鬼ごっこ，かくれんぼ，かんけり鬼などのような動的な遊びは，グループが小さくてもかなり大きなスペースを使うものもあるが，傾向として，グループが大きくなると，その利用スペースも大きくなるといえる．

第6表　グループ人数と遊戯スペース（全例数）

グループの人数 / スペース（m²）	2 ～ 3		4 ～ 5		6 ～ 7		8 ～	
	a	p	a	p	a	p	a	p
1 ～ 20	15/30.6	35/87.5	8/19.1	21/84.0	5/18.5	1/33.3		1/50.0
21 ～ 40	7/14.3	3/ 7.5	4/ 9.5	1/ 4.0	5/18.5	1/33.3	1/11.1	
41 ～ 60	7/14.3	2/ 5.0	1/ 2.4					
61 ～ 80	7/14.3			1/ 4.0	4/14.8	1/33.3	2/22.2	
81 ～ 100	3/ 6.1		3/ 7.1	1/ 4.0				1/50.0
101 ～ 150			3/ 7.1		2/ 7.4			
151 ～ 200			5/11.9	1/ 4.0				
201 ～ 250	3/ 6.1		4/ 9.5		2/ 7.4		1/11.1	
251 ～ 300	1/ 2.0		5/11.9		3/11.1		1/11.1	
301 ～ 500	2/ 4.1		3/ 7.1		4/14.8		1/11.1	
501 ～ 1000	4/ 8.2		4/ 9.5		2/ 7.4		3/33.3	
1001 ～			2/ 4.8					
計	49/100	40/100	42/100	25/100	27/99.9	3/99.9	9/99.9	2/100
スペースの平均（m²）	128	11	277	20	192	38	356	55

注．1．aは動的な遊び，pは静的な遊び．
　　2．分子は例数，分母は計に対するパーセント．

第7表　グループの構成と遊戯スペース（全例数）

スペース(m²) ＼ グループ*	m	f	mf	Y	S	YS	計
1 ～ 20	26/28.3	29/63.0	33/55.0	31/60.8	27/29.7	30/53.6	88/44.4
21 ～ 40	8/8.7	5/10.9	9/15.0	3/5.9	15/16.5	4/7.1	22/11.1
41 ～ 60	7/7.6	2/4.3		1/2.0	5/5.5	3/5.4	9/4.5
61 ～ 80	8/8.7	3/6.5	5/8.3	3/5.9	11/12.1	2/3.6	16/8.1
81 ～ 100	6.6.5		1/1.7	1/2.0	3/3.3	3/5.4	7/3.5
101 ～ 150	3/3.3	1/2.2	1/1.7	2/3.9	2/2.2	1/1.8	5/2.5
151 ～ 200	5/5.4	1/2.2	1/1.7	2/3.9	2/2.2	3/5.4	7/3.5
201 ～ 250	5/5.4	2/4.3	3/5.0	2/3.9	4/4.4	4/7.1	10/5.1
251 ～ 300	7/7.6		3/5.0	3/5.9	6/6.6	1/1.8	10/5.1
301 ～ 500	5/5.4	3/6.5	2/3.3		7/7.7	3/5.4	10/5.1
501 ～ 1000	10/10.9		2/3.3	3/5.9	8/8.8	1/1.8	12/6.1
1001 ～	2/2.2				1/1.1	1/1.8	2/1.0
計	92/46.5	46/23.2	60/30.3	51/25.7	91/46.0	56/28.3	
スペースの平均 (m²)	212	56	87	103	172	114	

注．mfは男女の計，YSは幼児と小学生の計

＊ 第1表，第5表参照

グループの質との関係についてみると，第7表のようである．男の子，女の子，幼児，小学生などのそれぞれ同質グループと，それらの混合した異質グループについてみると，かなり差がある．ままごと，ごむ飛び，ジャンケン遊びなど，比較的まとまりのある遊びが多い女の子の場合は，その利用スペースは平均して50m²程度にすぎないが，ボール遊びを中心に，その他かんけり鬼，つかまえ鬼，ピストルごっこ，ふざけっこなどをよく行ない動きの大きい男の子では，200m²以上とかなり大きい．また，三輪車・豆自動車などの乗物遊びやままごとその他のごっこ遊び，砂遊び・土いじり，ピストルごっこ，スーパーマンごっこ，ふざけっこ，かけっこなどをして遊ぶ幼児や，幼児をまじえたグループでは，ほぼ100m²，組織的な遊びを中心とする学童の場合は，170m²程度とみられる．

団地による差は，特に男子のグループの場合に大きく，赤羽台では常盤平の半分以下（46.8%），豊四季は約60%の値を示し，その他幼児や学童グループの場合でも，常盤平団地では遊びのスペースの大きいのが目につく．次に，遊びの種類と利用スペースについてみる．ま

第8表　遊びの類型と遊戯スペース（団地別）

利用スペース（m²）	＊ A		K		M		計	
	a	p	a	p	a	p	a	p
1 ～ 50	10/32.3	20/95.2	10/35.7	14/100	31/45.6	29/82.9	51/40.2	63/90.0
51 ～ 100	10/32.3		6/21.4		5/7.4	6/17.1	21/16.5	6/8.6
101 ～ 150			4/14.3		1/1.4		5/3.9	
151 ～ 200		1/4.8			5/7.4		5/3.9	1/1.4
201 ～ 250	1/3.2		3/10.7		6/8.8		10/7.9	
251 ～ 300	4/12.9		1/3.6		5/7.4		10/7.9	
301 ～ 500	4/12.9		1/3.6		5/7.4		10/7.9	
501 ～ 1000	2/6.4		3/10.7		8/11.8		13/10.2	
1001 ～					2/2.9		2/1.6	
計	31/100	21/100	28/100	14/100	68/100	35/100	127/100	70/100

注．1．aは動的な遊び，pは静的な遊び　　2．分子は例数，分母は計に対するパーセント

＊ 第1表参照

ず，遊びの類型をその利用スペースで表わすと，第8表のようである．静的な遊びのスペースは，3団地全体についてみると20m²以内（82.9%）がほとんどであり，動的な遊びは50m²以内（40.2%）が最も多く，300m²以内（80.3%）が大半である．この傾向は，団地により差はほとんどないといえる．

静的な遊びは，年令の小さい子供が多く（学令前の幼児が70.7%を占める），グループの人数も平均3.5人と，比較的小さい．ままごと遊びなどのほかは男の子が多いけれども，動きも激しくなく，場所の移動も少ないので利用スペースが小さい．動的な遊びは，年長の子供もかなり多く，グループ人数も平均4.5人と，多少大きい．またかなり激しい動きや広いスペースを使う遊びが多いのである．遊びの種類別に利用スペースを示すと，第9表の一部に掲げたようになる．

第9表　遊びの種類別遊戯スペースその他（全例数）

遊びの種類	三輪車豆自動車	自転車	ローラースケート	ベースボール	ドッジボール	バドミントン	キャッチボールその他	ごむ飛びなわ飛び
グループの人数	2—5 (3.3)	2—6 (3.5)	2—6 (4.0)	3—12 (5.8)	2—10 (5.3)	2—4 (2.7)	2—5 (3.1)	2—7 (4.1)
グループの年令	3—7 (4.0)	3—8 (6.1)	8—12 (10.9)	4—11 (8.1)	5—12 (9.2)	7—11 (9.4)	3—11 (6.5)	4—12 (7.9)
遊び場の距離 (m)	10—180 (40)	10—250 (66)	50—550 (240)	20—500 (140)	30—400 (100)	10—480 (110)	10—450 (78)	10—350 (73)
遊戯スペース (m²)	39—500 (149)	32—260 (108)	105—314 (210)	100—900 (347)	36—900 (215)	18—120 (55)	14—300 (127)	4—50 (24)

遊びの種類	ふざけっこ	鬼ごっこかくれんぼ	ジャンケン遊び	かけっこ飛びっこ	ままごと人形遊び	その他のごっこ遊び	砂遊び	
グループの人数	2—11 (4.6)	3—12 (5.6)	2—6 (5.5)	2—8 (4.9)	2—8 (3.5)	3—8 (4.3)	2—6 (3.4)	
グループの年令	3—12 (6.6)	3—12 (8.0)	4—10 (7.3)	3—12 (7.6)	3—9 (4.9)	3—9 (5.0)	3—9 (5.4)	
遊び場の距離 (m)	20—430 (55)	10—180 (75)	30—240 (88)	10—400 (109)	10—400 (55)	10—80 (36)	10—330 (83)	
遊戯スペース (m²)	7—870 (246)	16—1600 (524)	4—350 (112)	8—500 (94)	1—40 (8)	4—100 (37)	2—70 (14)	

注．三輪車や自転車の遊戯スペースは延長（m）で示す．
（　）内は平均値を示す。

摘　　要

以上に述べたことは次のように要約できる．

1．団地の中で戸外遊びに使われる場所は，住戸から100m以内の所が大部分であるといえる．

2．男女とも年令が高くなると，多少住戸から離れた所で遊ぶようになるが，学童女子で100m，男子で150m以内が，それぞれの過半数を占めている．

3．静的な遊びの場合は，ほとんどが住戸から100m以内であり，動的な遊びでもボール遊びなどを除けば，全体の80%が140m以内で遊んでいる．

4．遊びのスペースは，男子・女子・幼児・小学生などのそれぞれ同質グループと，それらの混合した異質グループとでは差があるが，幼児や女子グループおよび幼児を加えたグループでは100m²以内，男子グループや小学生のグループの場合は200m²以内といえる．

5．遊戯スペースは，静的な遊びの場合で20m²，動的な遊では300m²以内がほとんどである．

6．ままごとなどのごっこ遊び，なわ飛び・ごむ飛び，ボール遊び，つかまえっこ，かけっこなどの遊びは，既設の児童遊園とそれ以外のオープンスペースとが，遊びの展開の面からみると未分化で，児童遊園というものが埋没している．しかし，ローラースケート，とびっこ，かんけり鬼，ジャンケン遊びなどは，児童遊園の施設やスペースを使って遊び，そのために，子供は身近かな遊びの領域を越えて，行動範囲も200m以上とかなり広がる．

結局，子供同士で遊ぶ場合は，幼児や幼児を加えたグループでは，居住棟周辺の100m程度，学童でも200mの範囲が利用頻度が高く，安心して遊べる領域である．問題は，この遊びの領域を拡大することだけではなく，その中で子供が自分で友だちをつくる機会と，いろいろな

形で自由な遊びが発展する場を，いかに配慮するかである．さらに，遊戯器具を中心とした児童遊園にとどまらず，車や水や構成遊びなど，多様な遊び場を配慮して，子供の行動の発展と豊かな経験の機会を与えることが望まれる．こうしたいろいろな遊び場での子供たちの触れ合いがあって，違った友だちとの関係を楽しくつくっていく機会ももてるわけである．

調査にあたり造園学科学生大石武朗，小林本八両君の熱心な協力を得た．記して謝意を表する．

文　　献

1）土肥博至・内藤彰(1958)：日本建築学会論文報告集 No.60：309-312.

2）近藤公夫(1964)：造園雑誌 27（No.3,4）：50-52.

3）鈴木成文・多胡進・栗原嘉一郎・溝神宏至朗 (1961)：日本建築学会論文報告集 No. 69：361-364.

4）――――(1961) 日本建築学会論文報告集 No.69：365-368.

5）――――(1966)：日本住宅公団1964年度委託研究報告書，13-56.

6）谷口汎邦(1962)：日本建築学会論文報告集，No. 71：47-52.

7）――――(1962)：日本建築学会論文報告集No.73：43-48.